

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21520517

研究課題名(和文) 関連性理論に基づく翻訳可能性の基礎的研究：表意、推意から、解釈的類似性、想定まで

研究課題名(英文) A Relevance-Theoretic Analysis of Translatability: From Explicatures, Implicatures to Interpretive Resemblances, and Assumptions

研究代表者

東森 勲 (Higashimori, Isao)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：20148604

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：関連性理論によれば、翻訳とは異なる言語間の意図明示的コミュニケーションであり、言語使用の一種で、原文と訳文とに生じるギャップは記号化された情報とコミュニケーションされた情報のずれで、解釈的類似性によるものと分析した。文字通りの意味とは100%の類似性と考える。すなわち、直訳とは、類似性100%の特別な場合で、意訳とは命題内容の類似性である。コミック、映画、ジョークの翻訳では表意、推意、解釈的類似性と想定を用いて、最終的には文化語用論にも関わることを示した。

研究成果の概要(英文)：According to Relevance Theory, translation involves cross-linguistic communication. So translation is a form of language use. The existence of discrepancies between the original and target texts in translation gap can be the results of gaps which are found between the encoded and communicated information, the effects of interpretive resemblance between what is encoded and what is communicated. Literal translation is a special case of resemblance. Non-literal translation is a case of resemblance in proposition. Comic, film and joke translation involves explicature, implicature, interpretive resemblance and assumptions which lead to cultural pragmatics.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：翻訳 関連性理論 解釈的類似性 表意 推意 想定

1. 研究開始当初の背景

(1) 関連性理論ではすでに Ernst Gutt が 1991 年に翻訳と関連性理論に基づきバイブルの翻訳を扱い、スペイン語の翻訳も、Xose Rosales Sequeiros により 2005 年に出版され、2008 年には Cambridge から翻訳の論文集が出版されたが、日本では、関連性理論のもとではまだ、翻訳の研究が本格的に行われていない状況であった。

(2) 東森自身もこれまでに翻訳関連としては「借用語と関連性理論」(1998 『神戸女学院大学論集』第45号, pp. 3-28) くらいしか、研究がなく、この機会に翻訳を関連性理論から詳しく研究したいというのが、当初の状況でした。

2. 研究の目的

(1) 日本語から英語への翻訳の問題を関連性理論から表意、推意、解釈的類似性などの観点から研究をする。

(2) 英語から日本語への翻訳の問題を関連性理論から表意、推意、解釈的類似性から分析する。

3. 研究の方法

(1) 日本語から英語への翻訳の問題は『ゴーストハント』という日本語のアニメを英訳ではどのように翻訳されているかを分析し、“Some Pragmatic Issues on Japanese Comic Translation into English: A Relevance-Theoretic Account”として韓国、で2013年に発表した。また、日本語から英語への研究として、『サザエさん』の英訳を見た。清水の舞台から飛び降りるは、Niagara Falls に飛び込むと英訳されていた。

(2) 英語から日本語への翻訳としては、Mrs. Doubtfire など映画のシナリオの和訳などを研究材料として、関連性理論から分析をした。

(3) すこし専門分野となる仏教関係の英訳、それから日本語がそのまま、世界で用いられる外行語の研究も行った。

4. 研究成果

(1) 日本語が英語(あるいは他の言語で、外行語として現時点でどのように借用語として使用されているかを現地調査し、辞書による調査、ロンドンなどでの現地調査と合わせて、日本語がどれくらい借用語として英語圏(あるいはほかの国)で使用されているかを調べ、このようにして借用された日本語の意味がもとの日本語からどのように変化したか、

英語借用語として定着したかを解明した。たとえば、Satsuma(薩摩)はイギリスでは日本の冬に食べるみかんの意であり、Hibachi(火鉢)は日本語では冬に炭をいれて使用する暖房であるが、カリフォルニアでは浜辺でバーベキューに使う、コンロの意となっている。また、kamikazeは現代日本語ではあまり使用されないが、英米圏では荒っぽい運転をするひとをa kamikaze driverと表現する。このような日本語の本来の意味を英語として借用語化するとどのように、アドホックな概念形成(Ad hoc concept construction)されるかを、関連性理論の枠組みの中で分析した。

(2) PC 表現、たとえば、黒人(Black)からアフリカ系アメリカ人(African American)への変化なども翻訳と文化に関するものとして、関連性理論より分析した。

(3) 英語ジョークの翻訳が日本人にはなぜわかりにくいかを、関連性理論から解明を試みた。Jodlowiec (1991a, b)、Muschard (1999, 14)、Yus (2003, 1300) Yus (2008)などジョークに関する関連性理論の研究成果を外観したあと、異文化コンテキストとして、聞き手の想定による分析を試みた。

(4) 関連性理論による仏教の翻訳を以下のようにした。

① 表意について

曖昧性の除去：<浄土>Pure Land Buddhism と最後にBuddhismを追加して翻訳している。

3番目の英訳ではPure Land Wayと最後にWayを追加して翻訳しているなど。

飽和：故知是大明呪では主語(the Heart Sutra) the Perfect Wisdom を論理的関係を明示するために補っているなど。

自由拡充：日本語には念仏(Nembutsu)の表現がないが英訳にはNembutsuが出てくるタイプなど

アドホック概念形成：無明* = ignoranceなど

② 推意について

推意前提：色(Color)は形(Form)の一要素。

言語表現：色(即是空) (空即是色)

推意帰結：Form(is none other than emptiness) (Emptiness is none other than form.)

③翻訳について

解釈的類似性を仏教の音訳でみた：闍伽(あか)。サンسكريット語arghaの音写など。直訳は仏教用語の*Kenshin Daishi*(lit. “Great Teacher—the Seer of Truth”)などでみた。意識は仏教用語でnirvana(涅槃(ねはん))の説明をblissful non-beingという英訳などに見た。日本語から英語への借用語で’shinjin’などfaithという英訳ではキリスト教などの間違った理解を避けるために多用されていることをみた。

(5) 一般の和英辞書と、翻訳ソフトとはどのような違いがあるか、また、仏教用語の見出し語自体がこれらの翻訳ソフトには存在するのか。日常語化している、仏教用語から来た語である、「大げさ」、とか「玄関」とか、「大丈夫」とかの語源などの情報も辞書化する場合にどこかにのってほしいと考え調査した。仏教文化の普及にはまず、専門用語ありきで、これらの英訳は重要な出発点であり、最新のコンピュータを利用した翻訳ソフトとの接点の研究はある意味では最先端の研究と位置づけられる。

英日/日英翻訳 本格翻訳 6 ソースネクスト 3,970円(税込)

ATLAS 英日/日英翻訳ソフト翻訳パーソナル 2007 富士通(CD-ROM - 2007)(Windows) ¥9240(税込)

コリヤ英和!一発翻訳 2009 for Win 標準価格 9,800円(税込)などを用いて研究した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

- ① 東森勲、日本語から英語への借用語と意味変化について：関連性理論による説明、龍谷大学国際社会文化研究所紀要、査読無、第16号、2014、(印刷中)
- ② Isao Higashimori, Joke Translation and Cultural Differences: A Relevance-Theoretic Account、龍谷大學論集、査読

無、483、2014、110-129

- ③ 東森勲、関連性理論によるPC表現の分析：社会的想定と認知語用論、龍谷大学国際社会文化研究所紀要、査読無、第15号、2013、187-210
- ④ 東森勲、仏教と翻訳の可能性について関連性理論による分析、龍谷大學論集、査読無、479、2012、57-118 <http://repo.lib.ryukoku.ac.jp/jspui/handle/10519/1816?mode=full> (公開)
- ⑤ 東森勲、日英翻訳ソフトによる仏教用語の翻訳可能性について、龍谷大学仏教文化研究所紀要、査読無、第49集、2010、1-29. <http://repo.lib.ryukoku.ac.jp/jspui/handle/10519/1525?mode=full> (公開)

[学会発表](計 2 件)

- ① 東森勲、関連性理論に基づく日英語の翻訳可能性について：アニメ翻訳からジョーク翻訳まで 日本英文学会関西支部大会 2013.12.22 龍谷大学文学部にて発表
- ② Isao, Higashimori, Some Pragmatic Issues on Japanese Comic Translation into English: A Relevance-Theoretic Account 韓国、韓国外国語大学で開催された Korean Association of Translation Studies International conference(2013.10.18-19)にて研究発表

[図書](計 件)

[産業財産権]

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東森勲 (HIGASHIMORI, Isao)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号：20148604

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：